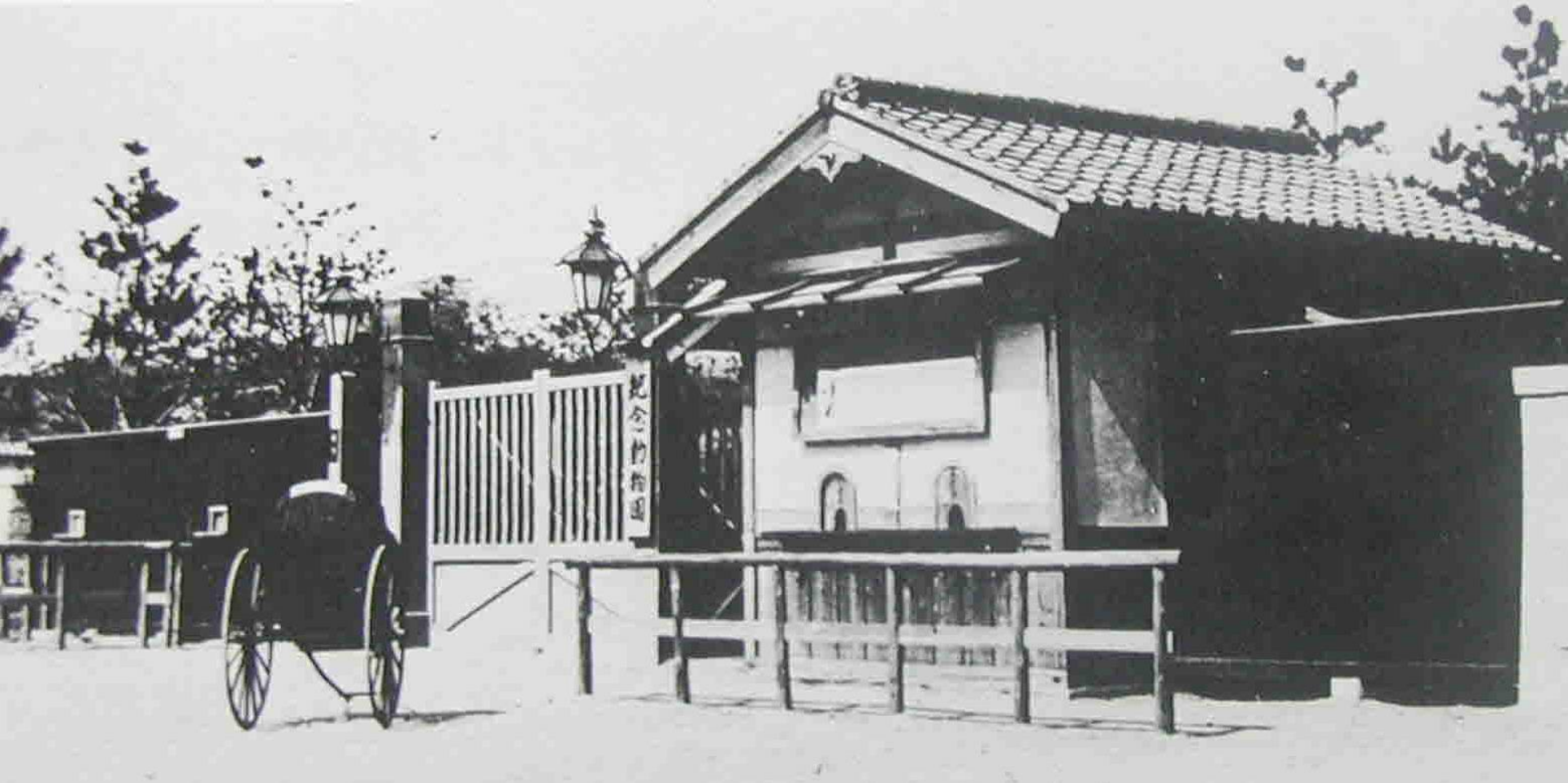


第2回 県立野市総合公園再整備方針検討委員会
令和5年8月21日

共汗でつくる新「京都市動物園構想」 ～「近くて楽しい動物園」新たな都市型動物園をめざして～



京都市動物園 園長 坂本 英房



京都市動物園

明治36(1903)年4月に日本で2番目に開園



開園当時の正門

新「京都市動物園構想」



基本方針

- 現地での再整備
- ヒトも動物も楽しい新たな都市型動物園
- 教育プログラムやサービス(ソフト)の向上



■ 現地での再整備

琵琶湖疏水の豊かな水源と自然環境の良さに鑑み、
現地で再整備

■ ヒトも動物も楽しい新たな都市型動物園

交通の便の良い立地や環境の長所を生かし、限られた面積を最大限に活用することで、動物が人に近いという本園の特色、魅力を打ち出し、人も動物も楽しい新たな都市型動物園を目指す

■ 教育プログラムやサービス(ソフト)の向上

施設整備の効果による入園者増を一時的なブームに終わらせな
いよう、教育プログラムやサービス向上などのソフト充実を推
進し、ハード整備とソフト充実の相乗効果でリピーター等の確
保、集客の推進

新「京都市動物園構想」



7つのコンセプト

- 1 「近く」で動物たちの大きさやにおいを実感し、「いのち」が感じられる動物園
- 2 全ての人に優しい動物園
- 3 環境に優しい動物園
- 4 楽しく学べる動物園
- 5 安全で安心な動物園
- 6 市民との共汗でつくる動物園
- 7 「食べる楽しみ」、「買う楽しみ」を大切にした動物園

7つのコンセプト 新「京都市動物園構想」

1 「近く」で動物たちの大きさにおいを実感し、「いのち」が感じられる動物園

- 動物が入園者に「近い」という特色を生かし、五感を刺激し、より動物を身近に感じ、その姿や行動、能力を実感し、野生動物の生息地に思いを馳せる、そうした感性と想像力を育むとともに、「自然」、「いのち」、「こころ」、「人間」について考える場の提供

2 全ての人に優しい動物園

- 段差のない園路や授乳室など、お年寄りやハンディキャップのある方、子育て世代にも配慮した設備を備え、全ての入園者が快適に利用できる施設への転換



7つのコンセプト 新「京都市動物園構想」

3 環境に優しい動物園

- いのちの大切さや環境保全の重要性を伝える場としての動物園にふさわしい、環境負荷の少ない設備の導入や環境配慮型の施設への建替え、動物舎暖房への自然エネルギーの導入、雨水利用、動物糞の堆肥化、地元間伐材の利用等木のぬくもりが感じられる施設整備の推進

4 楽しく学べる動物園

- 動物たちとふれあい、また身近に観察できることを通じて、楽しみながら生物の多様性からいのちの尊さまでを学習できる場の提供
- 常駐する京都大学教員の最新の研究結果を、即座に体感できる場の提供



7つのコンセプト 新「京都市動物園構想」

5 安全で安心な動物園

- 入園者の皆様に緊急情報を正しく伝えるための園内放送設備の改善
- 緊急・異常事態にいち早く通報できる、全国の動物園で初めての動物舎内の不慮の事故発生時に無線で自動的に通報する「緊急通報システム」を園内27箇所に設置

6 市民との共汗でつくる動物園

- 地域住民や市民グループ、ボランティアの方々との共汗による動物園運営

7 「食べる楽しみ」、「買う楽しみ」を大切にした動物園

- 子どもにも人気のあるレストランメニューや思い出に残るオリジナルグッズの開発、市民（顧客）ニーズに合った商品販売の促進とリピーター確保

施設整備



施設整備の基本方針

- 整備の方法
- 繁殖可能な飼育環境の整備
- 研究機関等の活動拠点の整備
- 京都らしいサービス提供ができる施設の整備

施設整備の基本方針



■ 整備の方法

- 施設整備に当たっては、開園しながら段階的に整備する。
- 施設整備の対象は「ヒトと動物」の安全面から見直し、安全面で課題のある施設や老朽化が進んだ施設を優先し、平成21年度から27年度の7年間で行う。
- 第1の整備は、南側琵琶湖疏水側中央部分の遊休空間を利用し、ふれあい広場「おとぎの国」とする。
- 整備の過程で市民ニーズの変化や、飼育、展示技術の進展も予想されるので、整備計画は一定期間毎に見直しを行い、整備計画の直しは、市民の意見を取り入れながら実施する。

施設整備の基本方針



■ 繁殖可能な飼育環境の整備

- 飼育動物については飼育実績を継承するが、環境エンリッチメントに配慮し、飼育種の選定や飼育スペースの拡充を図り、種の保存に向けて繁殖可能な施設環境の整備を推進する。

■ 研究機関などの活動拠点の整備

- 野生動物の保全や動物行動の理解を目的とした研究について、京都大学をはじめ研究機関の活動拠点としての機能を果たすことのできる環境整備を行う。

■ 京都らしいサービス提供ができる施設の整備

- 「京都らしさ」と「味」にこだわった動物園ならではのメニューが提供できる飲食店等、特色のあるサービスが供給可能な利便施設の整備を行う。

施設整備

展示コンセプト



- 動物福祉に配慮した展示
- 動物を間近で観察できる展示
- 野生動物の保全につながる展示
- 動物の知性を実感できる展示
- ヒトと動物の関係について学べる展示

施設整備の展示コンセプト



■ 動物福祉に配慮した展示

- 動物福祉の立場から飼育動物が心身ともに健康に暮らせるような飼育環境を提供するとともに、なぜそのような環境が必要なのかを理解できる展示とする。

■ 動物を間近で観察できる展示

- 動物動物の大きさやにおい、鳴き声など五感を実感し、いのちが感じられる場を提供する。
- 動物の指や目などの形態や特徴、行動様式を間近で観察することで、「種」や「社会的な行動」の違いを学ぶ場を提供する。福祉の立場から飼育動物が心身ともに健康に暮らせるような飼育環境を提供するとともに、なぜそのような環境が必要なのかを理解できる展示とする。

施設整備の展示コンセプト



■ 野生動物の保全につながる展示

- 絶滅の恐れのある動物についての現状を紹介し、野生動物の保全の取組の重要性を学ぶ場を提供する。
- 京都の多様な自然環境を学ぶ、体験の場を提供する。
- 京都の自然環境に関する情報を提供し、野生鳥獣の救護活動や自然環境の保全の重要性を紹介する。

施設整備の展示コンセプト

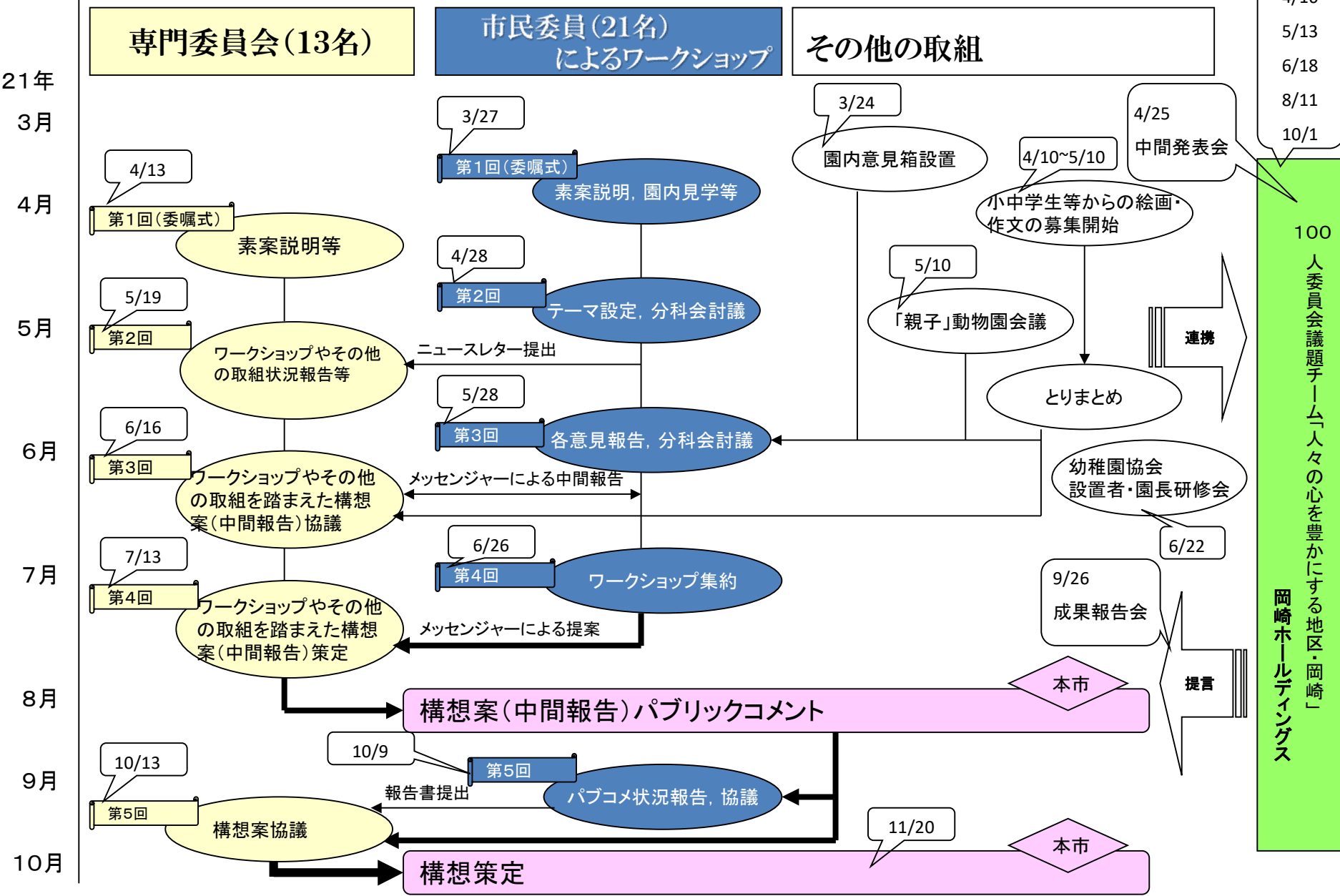


■ ヒトと動物の関係について学べる展示

- 家畜を通して、「ヒトと動物の歴史」を学ぶ場を提供する。
- 動物とのふれあいを通して、「いのちの尊さ」を学ぶ場を提供する。
- アジアゾウの使役動物としての歴史を紹介する。
- 京都にいる野生動物を通して、民話の主人公，狩猟の対象，農作物被害をもたらす害獣など、「動物の様々な側面」を学ぶとともに、野生動物との共生に向けた取組を紹介する。



「動物園大好き市民会議」の運営について



市民委員によるワークショップ



- 公募で選ばれた21人の市民委員
- 「企画・宣伝・サービス」「まなびの場」「環境整備」のテーマごとにグループに分かれ課題と提言を協議
- 新京都市動物園構想(素案)への提言

「親子」で語ろう！未来の動物園会議



主催：京都市動物園

協力：特定非営利活動法人 市民ZOOネットワーク

目的：京都市動物園のリニューアルをおこなうにあたり、市民へのPR
動物園をよく利用している“親子”世代に実際に動物園に来園し
てもらい、その世代の動物園に対する意見・要望を引き出す。

実施日：平成21年5月10日(日)

参加者：京都市内に住む親子 9組30名(大人14名、こども16名)

内容：園内をまわりながら自由に意見を述べ、スタッフは参与観察で、
参加者のコメントを記録

専門委員会



13人の専門委員

新京都市動物園構想(素案)をもとに、園内意見箱、市民委員によるワークショップからの提言、100人委員会からの提言、パブリックコメント等を反映させ構想(案)を策定

活性化に向けた取り組み

教育プログラムの策定

- これまでの取組の体系的見直し
- 全ての世代の人々に、常に感動を与えるプログラムの策定

市民との共汗でつくる動物園

- 周辺地域や支援団体、ボランティア等と連携した活動拠点づくり
- 活性化の継続に向けた事業やイベントの推進
- 資料公開の推進
- 情報発信の推進

新たな入園者の開拓

- 全ての人々に愛される動物園づくり
- 修学旅行の誘致
- 観光客の誘致

サービスの向上

- 全ての施設利用者に配慮した施設づくり
- 顧客満足度(CS)の高いサービスの提供

共汗でつくる

新「京都市動物園構想」



京都市動物園コレクションプラン



コレクションプランとは、動物の保存、繁殖に取り組むために動物を選定、分類し、管理していく計画のことです。

京都市動物園のコレクションプランは、(公社)日本動物園水族館協会(JAZA)のコレクションプラン(JCP)を基に検討し立案しました。本園のこれまでの取組や実績、飼育状況に加え動物福祉の観点、種の保存への貢献度、教育的価値、学術的価値、展示効果を指標にして選定し、最優先種、優先種、維持種、調整種の4つのカテゴリーに分けて管理していきます。

展示する動物種及び個体数を適正に管理するための見直しは定期的に行っていきます。

京都市動物園コレクションプラン



最優先種 5種（全飼育種の約4%）

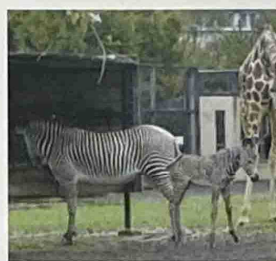
種の保存に貢献でき、特に繁殖を優先する種。



アジアゾウ
EN (IUCN)



ニシゴリラ
CR (IUCN)



グレビーシマウマ
EN (IUCN)



ツシマヤマネコ
CR (環境省)



イチモンジタナゴ
CR (環境省)

優先種 20種（全飼育種の約17%）

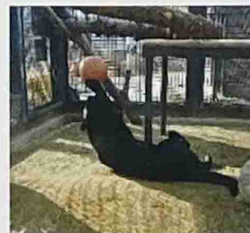
より良い飼育管理及び飼育環境作りに取り組む種。



チンパンジー
EN (IUCN)



マンドリル
VU (IUCN)



ジャガー
NT (IUCN)



ヤブイヌ
NT (IUCN)



フンボルトペンギン
VU (IUCN)

京都市動物園コレクションプラン



維持種 91種（全飼育種の約75%）

飼育展示を維持する種。

ショウガラゴ、ニホンツキノワグマ、ブラジルバク、ムササビ、シロフクロウ、エミュー、アオバト等

調整種 5種（全飼育種の約4%）

個体群の維持管理が困難なことや動物福祉の面から改善が困難で飼育展示の見直しが必要な種。



・ライオン

本来は群れで暮らすライオンを飼育するための十分な広さが確保できないことから、動物福祉に配慮し、令和2年1月に亡くなった個体を最後に飼育展示を中止します。



・オナガゴール

国内で唯一の個体であり、飼育展示の安定的な持続性が保たれないことから、現個体を最後に飼育展示を中止します。



・アカゲザル

飼育園が少なく、多様性を維持するためのオス個体の入替えができず個体群の維持が困難なことから、現個体群を最後に飼育展示を中止します。



・シロエリオオヅル

タンチョウ舎の一部を仕切り飼育を継続していますが、将来にわたり十分な広さを確保できないことから、引き続き移動先を探します。



・ヒヨドリ

野生鳥獣救護事業の救護対象から外れ導入が困難なため、現個体を最後に飼育展示を中止します。